

# 校名：福島大学附属幼稚園

所在地：〒960-8107 福島市浜田町 12 番 39 号

電話番号：024-534-7962

記載日： H28年 5月 17日

記載者： 星 俊子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

## 福島大学附属幼稚園はこんな所です！

### 広い園庭・豊かな自然環境

○たくさん遊んで体カアップにつなげます。

○敷地内には築山や池もあります。



### ——遊びを中心とした保育の中で——

- ・子どもたちの興味・関心を学びにつなげる
- ・一人ひとりの表現を大切にする
- ・友達との遊びの中で社会性を育む

○畑には園児が育てたおいしい野菜がいっぱい！ ○ウサギやモルモットの飼育もしています。



### 豊かなかかわりから学ぶ

○附属学校（小・中・特別支援）と交流保育

○教育実習生・学生ボランティアとのふれあい

○地域の人々との交流

（電車・バスを利用した遠足、  
近隣スーパーへの買い物体験 など）



## 食べること＝体を作ること(日常的な食育の実践)

- 収穫した野菜の調理と実食
- 伝統的な郷土料理に親しむ(ちまき・いか人参)
- 生ゴミの活用による肥料作り



## 「学びの物語」の実践!

- 幼児のよさをみとる保育
- 興味・関心から学びにつなげる保育
- 学びの物語により「先生」も「保護者」も育つ

## 貴校の卒業生の活躍状況について:

「幼稚園→小学校→中学校」とほとんどの幼児が進学するが、その後の進路調査は特に実施していない。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について:

従来、大学採用教員→県教委指導主事→(公立小学校教員)→副園長職

または大学採用教員→副園長職という流れが一般的であったようだ。

近年、県教委との人事交流により、公立小学校教頭職→副園長職→公立小学校校長職という例もあった。

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて:

### 【地域に開かれた幼稚園】

- 地域の子育て支援センターの役割の一端を担う。

オープン・ほっと・タイム

園庭開放・子育てに関する情報提供・親子活動の提案・職員による子育て相談

### 【地域のモデル園】

- 今日的な課題解決に向けたテーマのもとに保育実践研究を行う。
- 年間複数回の保育公開で、話題を提供。保育実践の成果を発信。
- 保育関係者による参観希望を受け入れ、本園教員の資質向上はもとより、本園の研究・実践の情報発信に努める。
- 県教委等の依頼により、各種講座の講師として本園教員を派遣し、実践成果を地域に還元する。

## 【食育の推進】

**園児対象**・・・作物栽培・収穫・クッキング・畑の肥料作り（ダンポスト利用）

**親子対象**・・・地域の郷土料理・親子クッキング・親子味噌作り・畑の肥料作り

**保護者対象**・・・保護者クッキング（おやつ・パンなど、講師は本園養護教諭など）

※畑の肥料作りの取り組みにおいて環境省主催「東北地方ESDプログラムチャレンジプロジェクト」で県知事賞を受賞

## 【学びの物語への取り組み】

大学教員との共著、「子どもの心がみえてきた」で日本保育学会保育学文献賞を受賞

○幼児の興味関心に丁寧に寄り添う→よさをみとる

○保護者とその子のよさを共有し、学びの物語を綴っていく

## 【幼小連携の取り組み】（KeCoFu・・・附属四校園の共同研究より）

○附属小学校の児童参観（入学後の1年生を本園教諭が参観）と参観後の協議

○附属小学校のあおい美術館（作品展）への出品協力

○年長児の給食交流

○入学時・入学後の教員同士の情報共有

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

## 【大学附属の特色を活かした幼稚園】

### 教育実習園として

○幼稚園教員・保育士をめざす学生に教育実習の場を提供

○実習後も保育ボランティアとして保育にかかわることで実践力を身につけ、県内外の保育関係機関に送り出している。（市内の公立幼稚園にも卒業生の割合が増加している）

○近隣の幼稚園・保育所に勤務している卒業生に研修の場を提供（学生向け保育公開への参加）  
初任者・中堅・ベテラン等、勤務年数の異なる卒業生により、情報交換や教材研究を行う。

※大学の授業の場として提供・・・人形劇講座の実践・発表に園児（親子で）が参加

### 大学や附属三校と連携した研究機関として

○地域のニーズに応じた、または今日的な教育課題解決に向けたテーマを設定し、保育実践を行う。

○KeCoFuによる附属小・中・特別支援学校との交流保育、及び連携事業  
夏期研修会において四校園教員の研修

○教育研究会の際に大学教員による講演会実施

○大学の研究協力（アンケート・幼児観察・制作発表等）

### 県教委・市教委と連携して

○教育研究会に担当指導主事・指導教員を指導助言者として依頼

○県教委主催、幼稚園教員研修等において場の提供、及び本園教員を講師として派遣

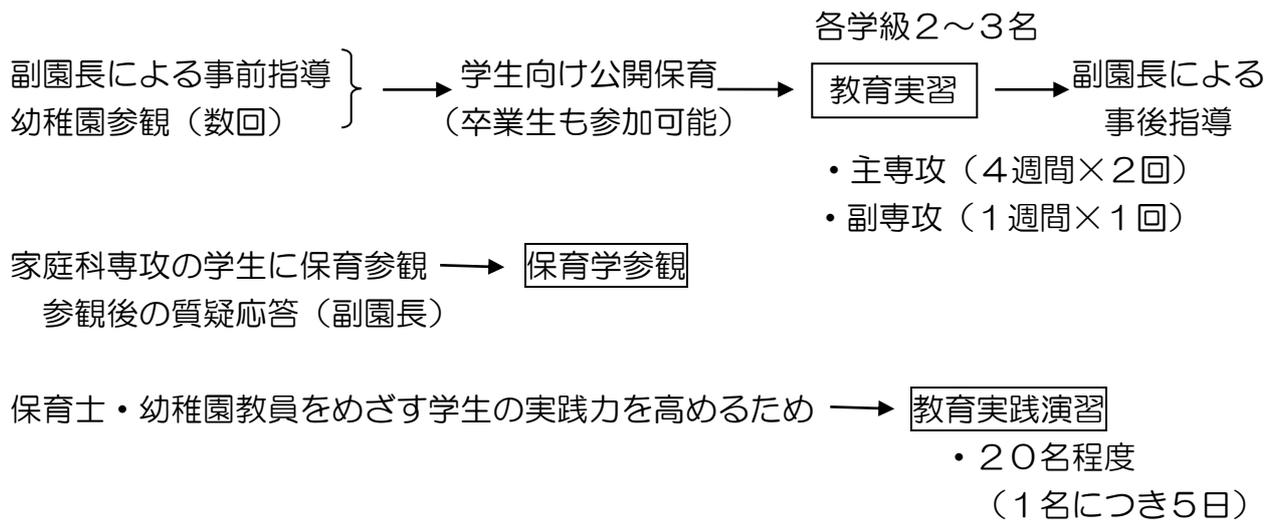
○公立幼稚園との共同研究（毎月）に参加・牽引

### 子育て支援センターとして

- 地域の未就学児とその保護者が安心して遊べる場として園庭開放（雨天時は園舎開放）
- 大学教員や地域の人材を活用した親子活動の実施
- 大学教員による子育て情報の発信（講演会の実施）

### 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

#### 【学生に向けて】・・・アフターケアも含む教育実習園



#### 【教育研究】

- 大学教員との連携による学びの物語の実践・研究
- 附属校園による共同研究（教員の連携・交流、幼児・児童・生徒の交流事業）の実践と発信
- 市教委・県教委との連携による研究会の開催

#### 【地域教育への貢献】

- 教育研究会の複数回実施（土曜開催・夏期休業中開催等、参加者に配慮した実施）  
収容可能な人数から、1回につき定員を80名としているが、毎回希望者は100名越え
- 大学附属として大学の人材等を活用した講演会の実施 → **学術講演会**  
（文科省など中央の著名人も含む・・・大学教員などを通して連絡が付きやすい。）
- 地域の未就学児・未就園児への遊び場の提供、保護者向け子育て情報の発信、子育て相談

#### 【地域の一幼稚園として】

- 保育を専門に学んだ教員による質の高い幼児教育、または先進的な幼児教育を受けられる幼稚園である。
- 豊かな自然に恵まれ、なおかつ管理の行き届いた幼稚園として修了園児保護者・在園児保護者の大多数から信頼を得ている。